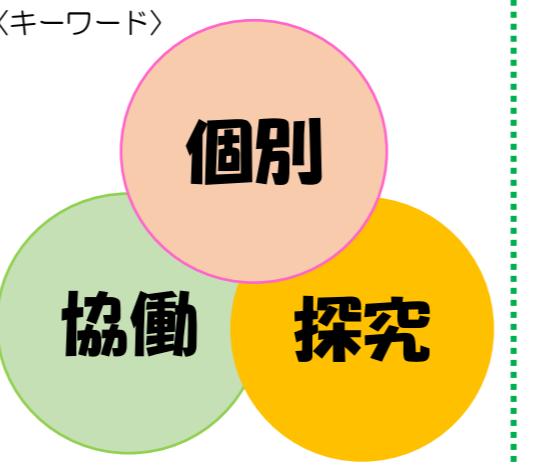


「学びの構造転換」の実現に向けて

〈これまでの構造〉
一斉一律
授業は
「教師主導」
教えた（つもり）
学んだ（つもり）

〈これからの構造〉
個別・多様
授業の主体は
「学習者」
学びたいこと
追究したいこと
からのスタート
+
学ばなければ
いけないこと



光村図書5年「たずねびと」より
「学びの手引き」より

ひろげよう
まとめよう
ふかめよう
とらえよう

●「たずねびと」を読んで感じたことや考えたことを、伝え合う。友達は、この物語に、どんな気づきや考えをもつたのだろうか。

●「たずねびと」を読んで感じたことや考えたことを、どうな変化があつたのだろうか。感じたことや考えたことを、何を伝える役わりをしていただろうか。

●この物語を読んで感じたことや考えたことを、伝え合う。友達は、この物語に、どんな気づきや考えをもつたのだろうか。

●「お兄ちゃんもせかさなかつた」。(118ページ7行目)は、「お兄ちゃんもせかさなかつた」。(118ページ7行目)は、なぜだろうか。

●「きれいな川」や「ただの名前」(118ページ7行目)は、「綾」がたずねた場所や出会った人は、それぞれ、「綾」は何を伝える役わりをしていただろうか。

●最後の場面について、考えたことを友達と話そう。

●広島についてから、「綾」にはどのような変化があったろう。使われている言葉に着目しながら、心情の変化をどうえよう。

〈学習の流れ 高ニスタイル〉

平成31年・令和元年度の取組(国語 話す聞く)

実の場のある「話したい！」課題設定

児童自身が解決したり、話し合ったりする必然性をもたせる。

日常的な対話の取組

教科や領域に限らず、日常的に対話に取り組む。
(ミニ単元・帯単元の取組・朝の活動「高二トーク」新設)

よりどころとなる学習カード・掲示物等の作成

児童自らが「話すこと聞くこと」「伝え合うこと」のよい姿や言葉に気付き、よりどころとなるものを作成する。

発達段階に合わせた対話の力の育成

6年間の指導計画・評価計画を作成し、系統的に指導する。

対話の力を生かした学び合い

受けと返す対話により、考えを広げたり、深めたりする。また、新たによりよい考えを作り上げ、共に学び合うよさを実感する。

ねらいに沿った振り返り

教科・領域の特性を理解し、見方・考え方を働かせた学習（身に付いたこと・学び方等）の振り返りを行う。

①課題の発見

①～③の活動はつながり、
相互にかかわり合って高まっていく。

②課題解決のための学習

②対話 話し合い

③振り返り・次への期待

課題設定を「個別」にする

「初発の感想・交流から、自分で考えたいことを発見しよう！」
物語文→登場人物の心情の変化 情景描写 表現など。
説明文→文章構成 筆者の考え 論の進め方など。
※教科書の「学びの手引き」を参考にする。

読みの土台を作る

「単元でこれは最低限分かっておくべき！」は、
先に押さえてスタート＝全体の理解のベースを同じにする。
※教科書の「手引き」の「とらえよう」を参考にする。
教師は、指導目標をもとに、押さえるところを把握。

指導事項を学ぶ時間＝「ポイントレッスン」

学習計画の中で、「個別の探究」と「課題解決のための学習」の時間を設定する。個別の課題の探究が、全体の読みにも生きる。
※教科書の「手引き」の「ふかめよう」を参考にする

個々が深まるための協働

「友達に考えを聞いてみよう。誰に聞いたら考えが深まるかな？」
協働をする交流の時間は、教師が意図的に組み合わせたり、交流の目的を明確にしたりすることが大切。児童は、内容によって相手を求めて対話する。全体交流では、個別の探究が全体の課題につながり、読みが深まる。

自分自身を客観視し、学び方の振り返りと学習内容の振り返りをする

「どんな学び方で、何が身に付いたかな？」
例)振り返りでは、ワークシートに「学び方」と「学習内容」の両方を書けるようにする。

令和2年度の取組(国語 全領域)

5年 物語文「たずねびと」 (単元計画例)

- 0次
 - 音読
 - 意味調べの宿題

1次 - 学習計画づくり - 読みの土台づくり

- とらえよう を参考に
 - 個人課題設定

2次 - 探究に浸る - 個人課題の読みを生かし指導事項をおさえる - ポイントレッスン

- ふかめよう を参考に
 - 交流の時間

3次 - 考えを形成する (感想文など) - 学習の振り返り

〈研究を支える3つのマインド〉

Open のマインド

授業の「ちょいと見」

誰でも、どんな時でも授業を見る
ことができます。45分全て見る
必要もありません。必要なことは、学ぶ姿勢と授業者へのリスペクト。



Share のマインド

みんなで共有する自主研修

校内で自主研修を行うことで、各教科の授業のポイントだけでなく、個人の疑問や分からないうることも共有することができ、教師のチーム力の向上に繋がっています。



Advance のマインド

リスペクトのある熱い協議会

協議会では、一人ひとりの小さな疑問も遠慮なく発信できる雰囲気の中で、お互いの意見を尊重し合いながら、活発な話し合いを行っています。



